

「第2回雲仙・普賢岳溶岩ドーム崩壊ソフト対策検討委員会」

議事要旨

開催日：平成27年3月6日（金）

13：30～15：30

場所：雲仙岳災害記念館 セミナー室

1. クリープ以外の破壊現象、前兆現象について

- 現在、溶岩ドーム崩壊のメカニズムとしてクリープ現象を考えているが、それ以外のメカニズムも検討する必要がある。
- ドーム崩壊の前に、その前兆現象として落石・小崩落が連続する可能性もある。それを振動センサーによって検知できないか検討すること。
- ケース5ではクリープ的挙動を呈するかもしれないが、ケース3では挙動が異なるかもしれない。ドーム崩壊のメカニズムやそれに応じた観測体制を検討する必要がある。
- 警戒避難体制の解除基準も検討する必要がある。

2. 防災体制について

- 溶岩ドーム崩壊に係る防災体制（防災情報の伝達、警戒避難の判断基準、住民の防災行動等）について、市との間で認識を共有しておく必要がある。
- 臨時委員会について、実務レベルの具体的な内容まで検討しておく必要がある。
- フローに沿った関係機関及び臨時委員会との情報伝達訓練の実施を検討する必要がある。
- 防災体制の責任の所在を明確にすること。

3. まとめ

- 現時点の観測体制で対応可能な溶岩ドーム崩壊に対する警戒避難の暫定判断基準と、今後の観測方針については、承認する。
- ただし、今後上記1、2で指摘されたような事項について、並行して検討を行っていくこと。

以上